

中央審査会特別賞（優秀賞）

「地域をつなぐ水」

宮崎県 宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 一年 林 はる

私は、宮崎県綾町という人口七千人ほどの町に住んでいます。綾町には、深い照葉樹林が広がっていて、そこから湧き出す水は澄んでいて名水百選に選ばれた「綾川湧水群」があり、ユネスコエコパークに認定されています。

小学校の授業で、そんな綾町を流れる川からとった水道水と下流の宮崎市の水を飲み比べると、綾町の水のほうがおいしいと思いました。しかし、同じ綾町でも家で飲んでいる水はもっとおいしいと気づき、家の水道水について調べることにしました。

私の家は綾町の中心部から離れた、山の中の尾立という地区にあります。尾立地区では、綾町の水道水ではなく、尾立水道組合の水を使っています。私は、長年水道組合の係をしていたおじいさんに話を聞いてみました。

尾立地区では、五十年前程前にみんなの総意で水道について決め管理する水道組合という仕組みを作りました。役場が供給する上水道ではなく、地域の人が交代で機械係、会計係などの仕事を行い、水道水に入れる薬についても自分達で考えて決めることができます。

川の水は雨が降るとろ過しても濁ってしまうため、綾北川の地下二十メートルのところから、ポンプで水をくみ上げています。

この水は、まず養豚センターという施設のタンクに行き、そこから水道組合のタンクへと運ばれます。そして、そこで四段階に分けてろ過されます。その後およそ三十世帯へ運ばれていきます。

尾立の水がおいしい理由の一つに、消毒薬が入っていないということがあります。消毒をしなくても、菌がほとんど含まれていません。さらに、ミネラルやカルシウムなどの栄養分も多く、pHという数値も宮崎市は五・二、綾町は五・八と酸性ですが、尾立は七・一と中性に近く、体にもいいそうです。

尾立の水道組合で大変なことは、水道を利用している全世帯の人が参加して、自分たちでタンクやポンプ場の草刈りや掃除を行い、二か月に一度検針をすることです。また、台風が来ると電線が森の中を通っているため停電しやすく、停電するとポンプが止まって、断水してしまうこともあります。

私は、水道組合のタンクの見学がしたいと思い、母と一緒に見に行きました。山の中に鍵のかかった門があり、鍵を開けて急な坂を上っていくと、山の頂上にタンクがありました。タンクは、思っていたよりも深く、底に砂が沈んでいて、上の方のとてもきれいな水が、少しずつ次の槽に流れていました。タンクでろ過するだけで、こんなに水がきれいになると知り、驚きました。

上水道の場合は大腸菌が少しでも入っているといけませんので消毒する必要がありますが、簡易水道は、水を使う人々が消毒するかどうかを自分達の責任で決めることができます。尾立の水もほんの少量の大腸菌が検出されることがありますが、その危険性を分かった上で、消毒薬の味がしないおいしい水を選択してきました。

このような問題について、色々な人の多様な考えを聞き合うことで、みんなが納得いく水道水を作っています。水を通して地域の人々がつながることができているのではないかと思います。

自分が毎日飲んでいる水について知ったことで、水を守ることは川や森を守ると同時に地域の人々のつながりを大切にしていくことだと考えるようになりました。これからも、地域の一員として、水道組合の清掃に参加するなど、尾立ならではの水道水を大切にしていきたいと思っています。